

タウンミーティング 能美市婦人団体協議会 市政懇談会

2018. 9. 25 (火) 19:30～21:00

能美市ふるさと交流研修センターさらい

○参加者 市民 32名

○タウンミーティング議事録



●婦人団体協議会会長 あいさつ

- ・私達が市長と直接対話できる機会は少ない。楽しみながら意見を言っていただければと思う。

●市長あいさつ

- ・今年には自然災害が多く、全国的に豪雨災害、台風21号による被害、北海道胆振東部地震が発生した。能美市でも7月5日に大雨で鍋谷町に避難勧告を、辰口地区10町会に自主避難情報を発令した。課題として市民へ情報がなかなか伝わらなかったこと、避難勧告解除のための情報収集や発令のタイミングが挙げられる。台風21号の時には辰口だけでなく、寺井・根上にも自主避難所を開設した。安全安心に災害と向き合う必要があると感じた。
- ・今日は7つの提言を頂いている。時間のある限りゆっくり話し合いたい。

●教育長あいさつ

- ・今日のご提言・意見を教育行政に反映させていく。

●提言

1、能美根上駅周辺駐車スペースについて

(市民)

- ・能美根上駅お迎え用駐車場を事故防止のためにも改善してほしい。一時駐車場へは一方通行で車を前進させて駐車する方式となっている。駐車場から出る車はバックしなければならず、朝夕の通勤通学時には混雑や事故の心配がある。近隣の民家付近まで車が溢れている状態であるので、タクシー駐車スペースの活用や一時駐車場の線引きを改善するなど混雑の解消と乗降時の安全確保ができないか。

(市長)

- ・夕方の駅の様子を確認したところ、ロータリーに車が最大9台並んでおり、混雑していた。しかし一時駐車場の線をまっすぐに引き直し、バック駐車を促すようにすると車の

流れを遮ってしまうことになる。現状の線の引き方の方が渋滞になりにくいと考えている。一時駐車場を増やすことは難しいので、送迎の時は 30 分間無料駐車できる東口駐車場（100 台分有）を利用して頂きたい。東口駐車場を知らない人もいると思うので、周知・案内看板などを設置することを考えている。

（市民）

- ・ 駅に迎えに行くときは、余裕をもって行くのでみんなバック駐車できる時間はあると思う。しかし、今の線の引き方では前から駐車する人が多い。子ども達が電車から降り、車に乗り込むと一斉に車は動き出す。出庫時にバックすることになり、駅から出て車へ向かう子どもとぶつかる可能性が高くなる。安全のためにもバック駐車を促すよう線を引き直すか、または、一時駐車場の前方にある花壇をなくし出庫時に前進できるようにしたらどうか。

（市長）

- ・ 考えてみるが、まずは東口駐車場を利用していただきたい。

（市民）

- ・ 東口駐車場を利用するのは手間であり、面倒だと思う。渋滞解消ではなく、駐車場から出る時にバックすることになる現状を改善してほしい。

（市長）

- ・ 考えてみる。

2、能美市お出迎え看板の設置について

（市民）

- ・ 能美根上スマートインターチェンジ（SIC）が開通し、利便性の向上と災害時の不安軽減が図られた。現在も市道路面に「ようこそ能美市」と書かれているが目立たない。小松 IC 出口には主要施設への案内が設置されている。能美市の玄関口に相応しいお出迎え看板の設置を検討してはどうか。

（市長）

- ・ まず、能美根上 SIC に設置してあるモニュメントの傍に看板を設置する予定である。それとは別に案内看板を設置しようと思っているが、看板を設置する土地が確保できていない。看板は車を停めて見てもらう必要があると考えている。もう少し時間をいただきたい。

(市民)

- ・能美根上 SIC が開通して半年が経った。計画より利用量が多いが、平日と休日であり利用台数が変わらないと聞いている。平日は仕事の関係で利用する人が多く、休日は能美市に遊びに来るのに利用する人が多いと考えられる。
休日の利用が増えるように（能美市に遊びに来る人が増えるように）掲示板でイベント紹介などの表示をしたらどうか。今後のイベントを表示することによって SIC を利用した人がまた能美市に来たいと思うかもしれない。

(市長)

- ・計画では一日 1450 台の利用を見込んでいたが、今は、一日 1800 台の利用がある。計画時より多くの利用台車数を記録しているところは他にもあまりないと聞いている。
詳細な利用状況について、朝 6 時から 9 時の利用が全体の 25%を占めている、大型車の利用が多い、富山方面の利用が 75%であると中日本高速道路（株）から聞いている。また、3 つの IC（小松 IC・美川 IC・能美根上 SIC）の利用台車数の総合計が一昨年より 3%増えており、高速道路の利用台車数が全体的に伸びている。今後、このような利用状況の分析結果に基づいてどのような看板を設置するか考えていく。

3、能美市に「道の駅」で活性化を

(市民)

- ・動物園や辰口丘陵公園に近く、加賀産業道路沿いにある数年前から放置されたままの辰口フラワーセンター跡地を活用して、小松市や白山市のように、市の PR や市民の郷土愛醸成につながる「道の駅」を設置できないか。ゆるキャラと共に、市内の食材や特産物を見てもらうことが大事である。幅広い年齢層の雇用も期待でき、能美市発展の大きな力になると思う。

(市長)

- ・「道の駅」をつくりたいとは思っている。能美市には土産品を一堂に見て買える場所がない。
- ・跡地については土地の一部を購入するための予算を計上し、利活用を考えている。ただ、道の駅がいいのか、それ以外のものがあるのか考えていく必要がある。道の駅はコストがかかり、また加賀産業開発道路は、休日は交通量が多いが、平日は多くないのでレストランや物販をする道の駅の経営が成り立つのか疑問がある。
- ・跡地には柚子を絞る・押し寿司を作る施設が残って利用されているので、それらの施設の移動先などを考えていく必要がある。
- ・上記の課題を整理できたら計画していく。

(市民)

- ・富山の富岩運河環水公園にはコーヒーショップがあり人気がある。能美市には辰口丘陵公園といしかわ動物園が並んでいる。他にも若い人が集まる、憩える場所、コーヒーが飲めるような場所があればいいと思う。

(市長)

- ・店については誘致できればいいが、実際に店を構えるかどうかは、相手方が決める事である。跡地は金沢から辰口丘陵公園、いしかわ動物園へ来た人が金沢方面へ帰る時に入りやすい、良い位置にあるので利活用を考えて行きたい。

4、健康ロードの街灯設置について

(市民)

- ・健康（ヘルス）ロードは中高校生の通学路になっているが、灯台笹町から岩本町までの区間には街灯がなく、また人目が少ないため通行の不安を感じる。子どもも保護者も安心して通行できるよう街灯設置をお願いしたい。

(市長)

- ・まず、教育委員会が指定している通学路は、ヘルスロードではなく、別の道（2号幹線灯台笹岩本線）となっている。

(市民)

- ・通学路して指定されている道も夜は暗く、田んぼの中であり、山に近く熊が出る心配がある。

(市長)

- ・ヘルスロードが通学路としてふさわしいということであれば、通学路にして整備していく。街灯設置費については町会が費用の約半分を負担することになっているので、町会とも相談していく。

(市民)

- ・他の町に住んでいる人に聞くと、9時までは街灯が点いているが、9時以降は真っ暗であるとのこと。外国人の方も通っている。鶴来方面から帰る高校生も通るが、他の道もヘルスロードも9時以降は暗い。自分が住んでいる集落も真っ暗である。

(市長)

- ・街灯設置については費用のこともあるので、地元の町会長の話も聞いてみる。

(市民)

- ・農作物の関係もあり、夜 9 時までしか点灯できないという話も聞いている。

(市民)

- ・ヘルスロードとして、ウォーキングで利用するにも暗いと思う。

(市長)

- ・実態を把握できた。ランニングコスト、修理コスト、農業関係、通学路、街灯について地元や農業者、教育委員会と調整していく。

5、和田山・末寺山史跡公園の整備について

(市民)

- ・和田山・末寺山史跡公園の老朽化に伴う荒廃について、池は放置され噴水も止まり、たまり水にはボウフラが湧いてやぶ蚊発生の温床になっている。バーベキュー場もあまり利用されておらず非常に残念である。以前のように気軽に立ち寄れ、家族連れで賑わう市民の憩いの場となるよう施設の整備・補修などの改善をお願いしたい。

(市長)

- ・和田山・末寺山史跡公園の近くに新博物館を建設するのに合わせて周辺一帯を整理していく。公園もきれいになる。2020 年に完成予定である。付近には、防災センター、警察署もあり、この一帯を市民の皆さんが集える場所にする。
- ・能美市には国史跡が 5 箇所ある。新博物館を古墳めぐりのスタート地点にしていこうとしている。コースを作ったり、アプリを使って古墳の解説を聞けるようにしたりしていくことも考えている。

(市民)

- ・期待している。

6、成人年齢引き下げによる能美市の成人式のあり方について

(市民)

- ・今年 6 月に、成人年齢を 18 歳に引き下げる法案が可決されたが、これに伴って能美市の成人式はどのようなになるのか。18 歳での成人式開催となると受験と重なり参加できない人が増えると思われる。大学や就職のための新生活に向けた準備も必要であり、親としてはこれまでどおり 20 歳になった年に節目として成人記念の振り袖や晴れ着で祝ってあげたいとの思いがある。また、婦人会として貸衣装事業への影響が懸念されるので、ど

のような形で開催するのか教えてほしい。

(市長)

- ・施行されるまで 4 年あり、この 2 年間で方向性を決めていく。社会動向・国の方針などを見極めて判断していく。
- ・受験を控えた 18 歳・高校 3 年生時に開催することや 18 歳・19 歳・20 歳を全員対象にして開催するのは現実的には厳しいと思っており、従来通り 20 歳のときに開催するのも方法の 1 つではあるが、他の市町の状況、県の状況を見て決めていく。

(市民)

- ・婦人会では貸衣装事業をしている。貸衣装の展示会を毎年 1 回開催しているが、2〜3 年先の成人式の予約をしていく方もいる。成人式の予定について、皆知りたいと思っているので早めに決めてほしい。

(市長)

- ・気持ちはわかるが、誤った判断はできないので、2 年待つてほしい。

(市民)

- ・18 歳の方が参加できない時期や、夏の開催で振袖の着ることができない時期の開催はやめて欲しい。
- ・現在は中学校単位ではなく市内 1 箇所での開催となっている。子供たちにとって楽しいことなのか疑問がある。

(市長)

- ・一番に考えるべきことは、出来るだけ多くの成人者が参加できるようにすることである。成人者が、帰省しやすい時期がいいと考えている。

7、超高齢化社会に備えてについて

(市民)

- ・65 歳以上の高齢世帯が 4 割を超えるとされる 2035 年は団塊世代が 75 歳を超える 2025 年に続き、2035 年問題と言われている。高齢者を支える側の負担も増え、能美市で取り組んでいる地域包括ケアシステムを活用しつつなお、自宅で介護・看護は大変なことだと思う。

現在、市の特養や介老は数が少なく入所待ちは常に 150 人と耳にする。超高齢化社会に備え、能美市立病院や現存の施設などを機能変更し、有効に活用できないか。元気のあ

る今だからこそ将来に備え、待機児童ならぬ待機高齢者を減らす対策として進めてはどうか。

(市長)

- ・大変重要な課題であると考えている。介護にはたくさんの種類があり、訪問介護サービスや入院してサービスを受けるタイプなどもある。重度と軽度でも分けられいろいろな種類のサービスがある。高齢者向け住宅も人気で市内にも増えてきている。
- ・能美市の介護保険料は、県内で最も高い。これは施設が充実しており、その費用負担が保険料に反映されているからである。これ以上充実させていくと、さらに保険料が上がり皆さんの負担が増えることになる。
- ・能美市では、今の施設の規模を維持し、できるだけ健康でいてもらうような施策を考えていく。
- ・市立病院では、地域包括ケアシステムに対応できる病床を増やす計画を立てている。

(市民)

- ・地域包括ケアというのは地域の皆さんに支えられながら生活していくということだと思う。地域のつながりが薄れている中で逆をいく施策だと感じる。
- ・費用負担も必要であるのは分かっているし、つながりについて考えていく必要もあると思っている。私たちは何をしていかなければならないのか。

(市長)

- ・健康でいてもらうことが重要である。高齢化率が上昇している中、いかに医療・介護にかかる人を少なくしていくかが大切である。医療・介護費を削減しないと日本経済がもたないと思っている。

●その他

(市民)

- ・能美根上スマートインターチェンジの富山方面と福井方面の分岐までの距離が短く、どちらに行けばいいのか一瞬戸惑うことがあった。逆走事故が懸念されるので対応して欲しい。

(市長)

- ・確認する。

(市民)

- ・提言 1：駅の一部駐車場について

線の引き方を変えることを重ねてお願いしたい。

(市長)

- ・現状の線の引き方がよいという意見もある。

(市民)

- ・バック駐車のほうが危険を回避できる。他の車に乗り込もうと駐車場に向かってくる子供たちがいる中で、バックで出庫するのは怖い。

(市長)

- ・車の流れがスムーズなのは現状の線の引き方であり、便利という意見もある。考えてみる。

(市民)

- ・提言3道の駅・フラワーセンター跡地の活用について
道の駅はコストがかかるかも知れないが、期間限定で地元の農産物などを売ることができると「朝市」でにぎわいを創出してはどうか。高山の朝市のような形式にすれば建物を建てる必要がなくなると思う。

(市長)

- ・一案である。テント市や軽トラ市をしているところもある。

(市民)

- ・答えはいつでるのか。

(市長)

- ・あせって実施したくない。成功するようにどういう形がよいのか、調べていく。跡地は良い場所であるので、市民のみなさんの意見を聞きながら、喜んでもらえるように考えていく。

(市民)

- ・ぜひコーヒーショップを誘致してほしい。若い人が集える場所があればいいと思う。

(市長)

- ・違う話かもしれないが、能美市にはファーストフード店がないところが魅力だと言う人もいる。跡地の利活用については考えていく。

(市民)

- ・加賀地区女性県政会議で木場潟公園は4番目に人気がある公園であり、さらにサクラ並木を整備する計画があると聞いた。和田山・末寺山史跡公園は負けていると思った。

(市長)

- ・和田山にはたくさんのサクラの木がありきれいである。かつては寺井町商工会青年部で和田山のサクラまつりをしていた。公園の利用者が少ないのでぼんぼりなどは無くなってしまったが、サクラはきれいなのでぜひ行ってほしい。利用者が増えれば整備することも考えていくことになる。
- ・市役所の周りも桜がきれいである。植えてから約20年経つが、これからもっと枝ぶりが良くなる。将来名所になるかもしれない。

(市民)

- ・秋常山のアジサイはすごくきれいであるが、今年は雑草が伸びていて、アジサイが半分以上隠れていた。地元の人で除草しているが、高齢化しており大変と聞いている。市も宣伝していたが、残念な状況である。

(市長)

- ・一回調べる。

(市民)

- ・サクラやホタルを見ることができる和田山・末寺山史跡公園を整備するということで、「ふるさと交流研修センターさらい」に泊まる方にも喜ばれると思う。期待している。

(市長)

- ・たくさんの方に来ていただけるようきれいにしていく。

(市民)

- ・先日、大雨の際に鍋谷町に避難勧告避難した時に、主人の母が避難したが、避難者名簿に名前がなかった。母が書かずに部屋に入ったのかもしれないが、書いていないことを市役所が把握していたのか気になった。
- ・以前避難したときより対応が早かったと感じた。また、母は避難所が楽しかったと言っていた。近くに家族が住んでいるのに、避難所に避難するのはどうかと思う。手厚くしすぎではないか。

(市長)

- ・避難所に来た人には名簿に書いてもらっているはずである。書いてもらわないと市としても把握できない。
- ・避難勧告を出したのときは避難者に気をつかった。避難をしてもらわないといけなかったのと、勧告解除まで時間がかかったため、買い物送迎や食事手配をした。

(市民)

- ・台風の際に自主避難情報が出た時は、避難所に行くことはなく、自分の家に母を連れてきたが、市から確認の電話があった。市へ連絡したほうがよかったか。

(市長)

- ・できれば連絡してほしい。
- ・避難を呼びかけたときは自衛消防団、民生委員と共に全戸に声を掛けた。中には避難しなくてもいいと言う人もいた。
- ・避難所で健康を害さないよう、お風呂を開放したり体操をしてもらったり、気晴らしを用意したり、複数の部屋を用意したりした。しかしこの対応は特異なケースだと思っている。鍋谷町だけの避難だったためできたことである。国造地区全域が避難したら、手厚くできない。
- ・東日本大震災は先の見えない避難であった。大きな避難所では匂いや音が気になるという実態があった。今回の能美市の避難は先の見えるものであった。精神的状況が全く違う。また避難所が冷暖房のある辰口福祉会であったが、体育館だった場合、同じ環境ではない。この手厚い対応が当たり前だと思わないでほしい。

(市民)

- ・ゆるキャラ「ひぼ能ん・ゆず美ん」の着ぐるみは歩きやすくないのか。

(市長)

- ・足が短いところが愛嬌であるとして、売りにしている。

●市長あいさつ

皆さん自身が能美市を好きになって・自慢をしてほしいと思っている。そのためにも忌憚のない意見どんどん言ってほしい。